

集団給食施設から発生する食品廃棄物の飼料化

(東京都：株式会社 アルフォ)

取組項目

飼養管理	良質堆肥の生産	堆肥の広域流通	国産飼料生産・利用	有機畜産	その他(※)
			○		

(※) 畜産GAP、農場HACCP、労働環境の改善、消費者理解の醸成 等該当するものを記入

<取組主体について>

- ・所在地：東京都大田区
- ・代表者：代表取締役 熊木 浩
- ・【城南島飼料化センター】 面積：4,205㎡
【城南島第2飼料化センター】 面積：6,069㎡
- 原料受入：約3,100t/月 出荷量：約700t/月
- ・HP等：<http://www.alfo.co.jp/>



エコフィード工場内部

<取組について>

○ 概要

①排出事業者の取組

<食堂の管理運営：(株)グリーンハウス社>

- ・調理残さや食べ残し等を専用容器に分別する取組
- ・分別管理しやすいようメニューを工夫（例：串物、金属片の発生・混入を未然防止）

<食品残さの集積・管理：(株)グリーンハウス社>

- ・収集は1日3回（11時、14時、23時）、収集時間のみを記録（作業の単純化、簡素化）
- ・収積所では、生ゴミ、飼料化資源を専用コンテナに入れて分別管理（鶏豚のエサと表記）
- ・飼料化資源の収集は1日1回（午前3時）専用車が収集し、アルフォへ運搬

②エコフィード製造業者の取組

<原料投入>

- ・食品廃棄物（コンビニ弁当等）は、分別機にて廃プラと飼料原料に自動で分別

<製造方法及び製品特性>

- ・食品残さを廃食用油と混合し、減圧下で加熱（120℃以下）することにより過加熱を防止しつつ脱水乾燥する仕組み（いわゆる天ぷら方式）
- ・アルフォミールは、概ね1ヶ月程度もつが、2週間程度で使用している状況
- ・成分検査は月2回実施

③配合飼料の製造

<配合設計>

・アルフォミールは、大豆かすや魚粉等の代替えとして使用しており、栄養価及び価格面で非常に魅力的であり畜産農家からも高評価・使用量の増加を検討したいが、季節等により量的な変動があることから、安定調達が今後の課題

<飼料流通への取組>

- ・鳥インフルエンザ・豚熱対策として、車両については消毒槽を通過することなどの防疫対策を強化

